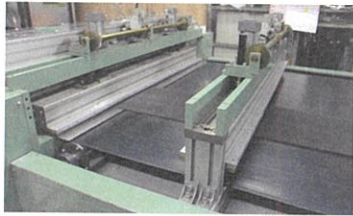




金網の裁断工程



プレス工程



独自の裁断加工機



熟練工の技が光る

■研究開発・製造現場の特徴

研究開発と少量多品種の製造を得意とする石川金網には様々な問合せが舞い込んでくる。最初は数個の試作だった案件が、その後大きな事業につながることもある。少しでも可能性のある案件は、難しい要求でもお断りしない。真摯に研究開発に向き合う中から、新しい主力事業を見つけている。新しいアイデアの特許化にも注力している。ものづくりの方法まで考えた実用的な特許は、他社の追従を許さない。

生産面では、協力工場を数十社持つのが特徴だ。自社だけではできないことや、生産量の制約も乗り越える。得意分野を持ち寄り、共に成長していけるように、協力関係をつくっている。今後も対応できる領域を広げていくために、協力工場は増やしていく方針だ。管理は大変になるが、このネットワークが独自の強みになる。

オーダーメイドの製造機械も強みの一つだ。金網は取り扱いが難しく、切断やプレスするにもノウハウが必要だ。金網用の自動断裁機など、独自の機械で差別化している。

■同社の強み

石川金網では、営業が研究開発するというユニークなスタイルを取っている。商談で顧客と接している営業が研究開発までやるのが一番効率がいい、という考え方だ。セールスエンジニアの立ち位置で、製造と一緒に研究開発する。営業がものづくりに直接関わるスタイルは、石川金網の歴史の中で脈々と受け継がれている文化だ。ものづくりの感覚と、チャレンジ精神が全社員に根づいている。



若手も活躍する職場



明るい笑い声が聞こえる



ベテラン職人も笑顔で



新製品「おりあみ / ORIAMI®」を使った作例

■社員の人材育成、自慢話

新製品「おりあみ / ORIAMI®」の開発では、ベテランの職人が大活躍した。金網で何ができるか、様々な試行錯誤が2年ほど続く中、たまたま職人が薄い金網を使って鶴を折った。みごとな出来栄の鶴を見て「おりあみ / ORIAMI®」のコンセプトが生まれた。職人技が生み出した新製品だ。

職場では、ベテラン職人から若手まで様々なキャリアを持つ人材が活躍している。数多くの新規案件に対応する中で、技術を磨き、スキルアップしている。

協力工場との関係をつくる中でも人が育っている。数多くの協力工場とやりとりには様々な調整が伴い、苦労も多い。柔軟な発想で全体を取りまとめ、総合的な力を身に付けている。

■会社の将来

今後も主力事業のフィルターをさらに拡張していく。オイルフィルターや、水処理用のフィルターなど、世界中で高まっているニーズに対応し、新製品開発していく。

既存製品のPRにも力を入れていく。従来は紙の総合カタログだったが、現在はネットが主力メディアだ。金網なら何でもできるというイメージを持ってもらえるようにアピールを続け、顧客の裾野を広げていく。

さらに、新規事業の「おりあみ / ORIAMI®」、「かなおり / KANAORI」を成長させ、新たな金網の可能性を広げていく。時代とともに成長する石川金網に期待が膨らむ。